

■ OnAir 3000

■ Touch'n>Action 進化形

Touch'n>Action コンセプトを掲げ世界中に納入されている OnAir シリーズの旗艦 OnAir 3000。音声処理部は Compact SCore と D21m I/O System を組み合わせて万全を期す一方、人が触れる部分にはモジュラーデスク・コンセプトを採用し、シンプルで快適な操作環境を構築可能。日本国内でも納入実績を着実に伸ばし、日々の放送を支えています。



OnAir 3000

DIGITAL MIXING CONSOLE

■ OnAir 3000 Table top frame

■ OnAir 3000 の主な特長

1. 6～48 フェーダー

フェーダーモジュール、フェーダースクリーン（タッチパネル）、ロータリーモジュールを組み合わせ、最大48フェーダーのデスクを構築可能。

2. アサイン自由のスイッチ&ロータリーエンコーダー

各モジュールのスイッチ、ロータリーエンコーダー類は、様々な機能をアサイン可能。ユーザーにとって理想のコンソールを実現できます。

3. レイアウト自由

モジュールは埋め込み型。コントロールサーフェイスそのものをユーザーが自由にレイアウトできるため、本当に使いやすいデスクが完成します。

4. 入出力ルーター標準装備

5. すぐにわかる操作方法

6. カード・スロット式による優れたメンテナンス性

7. マシンルーム不要の静音設計



■ OnAir 3000 Fixed frame



■ OnAir 3000 modulo

■ modulo 納入例 1: (株) 山陰放送 様



■ modulo 納入例 2: (株) エフエム福島 様



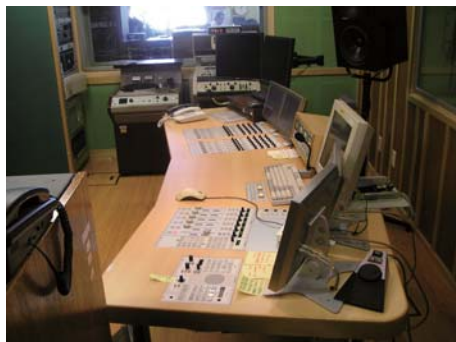
■ modulo 納入例 3: 朝日放送 (株) 様



■ modulo 納入例 4: (株) エフエム岩手 様



■ modulo 納入例 5: (株) 京都放送 様

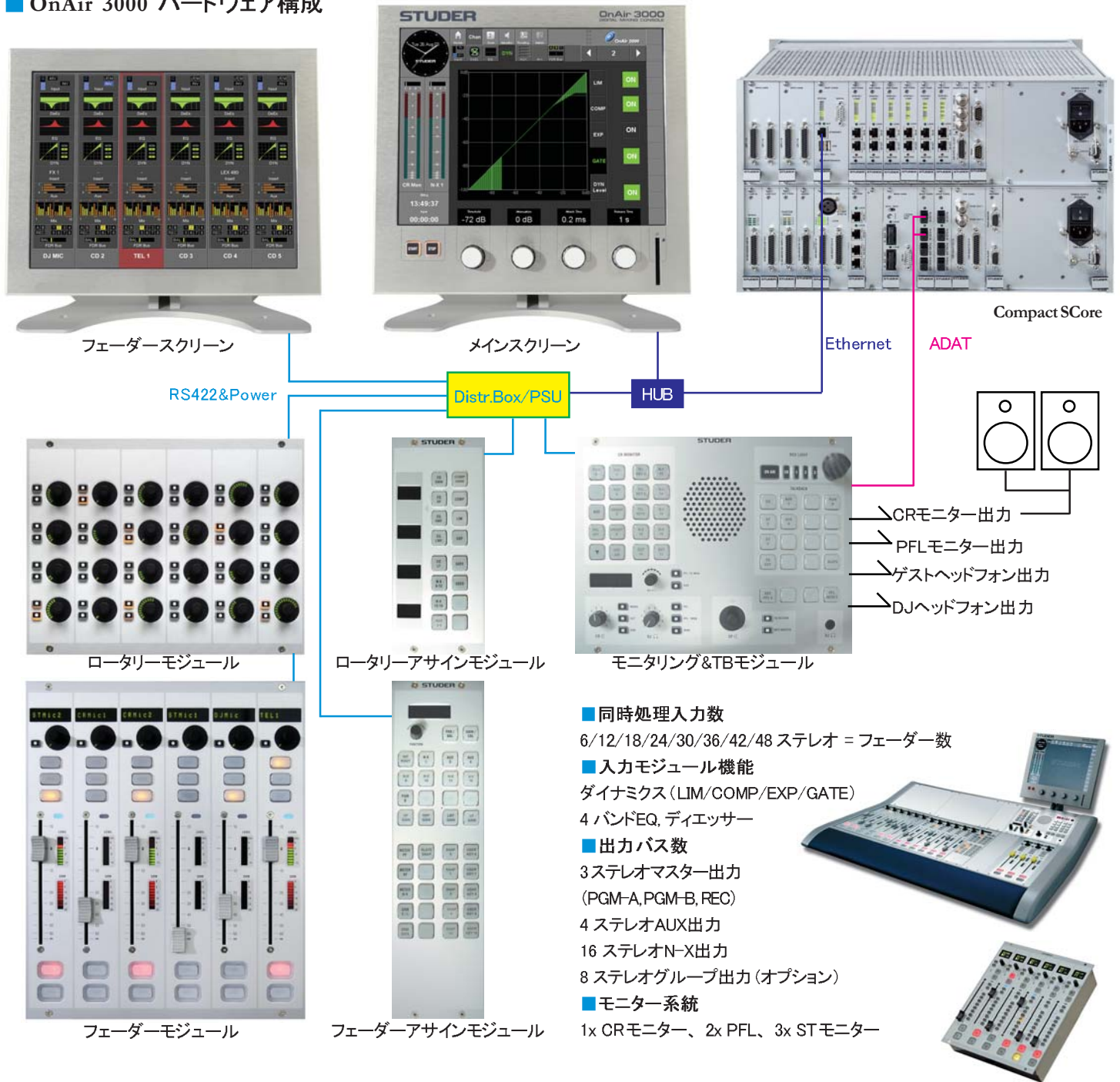


■ modulo 納入例 6: (株) エフエム青森 様



■ OnAir 3000

■ OnAir 3000 ハードウェア構成



■ 5.1 サラウンド仕様

OnAir 3000はわかりやすく「使える」5.1 サラウンド仕様を構築できます。

- ・2本の5.1マスターバス (5.1A, 5.1B) と3本のSTマスターバス (PGM-A, PGM-B, REC)
- ・2つの5.1モニターバス (CR, ST)を装備
- ・内部でダウンミックス

モノ/ステレオ/5.1いずれのインプットチャンネルも、ステレオまたは5.1サラウンド・マスターにアサイン可能。アサインするバスのフォーマットにより、自動的に5.1をステレオに内部でダウンミックス。サラウンド・コントロール・モジュールをモニタリング&TBモジュールに追加します。



■ RELINK対応

RELINKはスチューダーの音声卓同士を接続することで、お互いの音声ソースと制御データの入出力を共有することができる革新的な技術です。

■ ムービング・フェーダー選択可能

OnAir 2500と共通のムービング・フェーダー・モジュールを選択可能です。

■ SCore LIVE フレーム仕様も可能

OnAir 3000はCompact SCoreフレームが標準仕様ですが、VISTA familyと同じSCore LIVEフレームを選択することも可能です。最大1728ch X 1728chの入出力を処理できる強力な処理能力と、DSPカードのリダント機能が主な違いです。コストエフェクティブなCompact SCore仕様と、多チャンネル仕様への対応力とフェイルセーフ機能を持つSCore LIVE仕様。ニーズに合わせて選択できます。

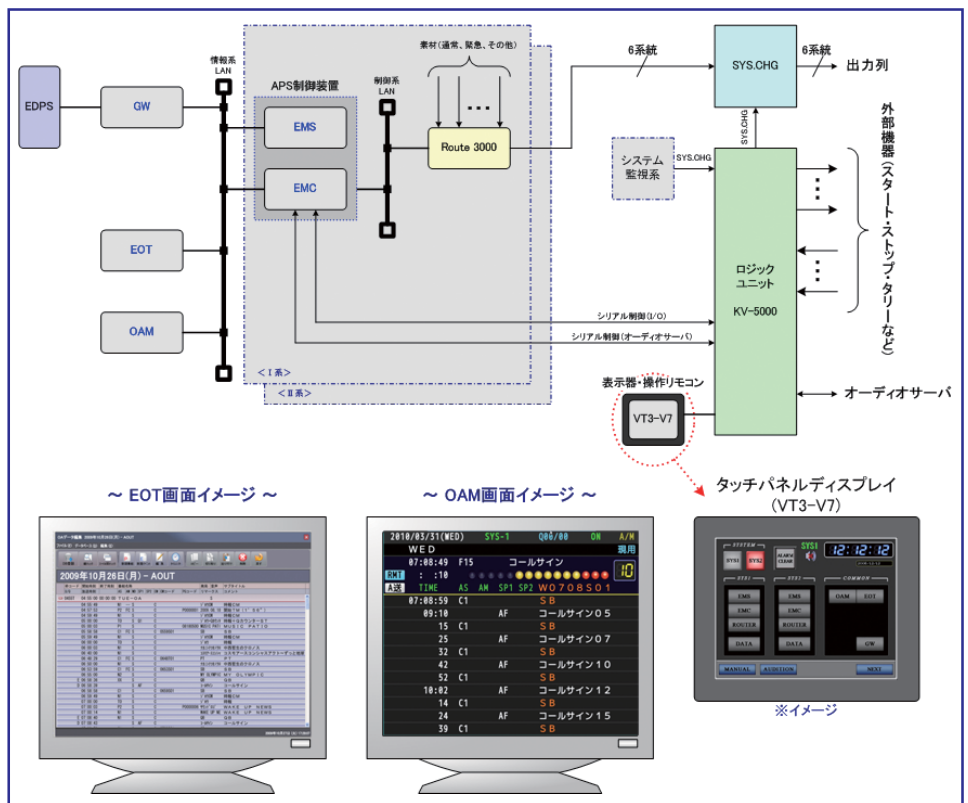
Route 3000

スチューダーのデジタルコンソールは、音声のデジタル・ルーターを標準装備しているミキシングコンソールと言えます。OnAir 3000からサーフェイスを省き、ルーターとして位置付けたモデルがRoute 3000です。外部のリモートソフトウェア等からシリアル制御されることで、高度なルーティング・マシンとして機能します。世界中の放送局の生放送スタジオに納入され、休みなく稼動しているOnAir 3000の信頼性はもはや説明不要でしょう。Route 3000はOnAir 3000そのものですので、EQやダイナミクスからサミングバスまでの単なる回線ルーターに留まらない様々な機能が使えますし、必要ならばフェーダーモジュールやモニタリングモジュールを装備させることもできます。入出力にはD21m I/Oカードを使用。ユーザーの仕様に合わせて細かく対応できるため、無駄な出費を抑えられるだけでなく将来の仕様変更にも容易に対応可能です。



Route 3000を使用したAPSシステム例

Route 3000を音声素材のルーターとして使用するAPSシステムの例。この図は、LSIジャパン(株)殿が実際に開発、提唱されているシステムの概念図です。I系II系で構成される完全な二重化システムが組まれています。EOT (イベント操作端末) でAPS制御データを編集し、EMS (イベント管理サーバ) により管理されるデータベースに登録。そのスケジュールに従い、EMC (イベント管理コントローラ) が、ルーターであるRoute 3000や外部機器を制御するKV-5000をリモートコントロールします。リアルタイム表示のOAM (オンエアモニタ) による監視はもちろん、マスター内のAPSラックに設置されるタッチパネルディスプレイ (VT3-V7) による操作も可能です。このシステムがEIAラック1本以内に納まり、かつ従来の常識では考えられないような画期的な予算で構築することができます。



■ APSシステム概念図 ご提供 : LSI ジャパン(株)様

Route 6000

VISTA familyやOnAir 3000でその信頼性を証明するSCore LIVEフレームをデジタル・ルーターとして特化させたのがRoute 6000。Route 3000同様、外部からのリモート・ソフトウェアでも動作しますし、スチューダーのRoute 1000リモートソフトウェアも利用可能。最大1,728x1,728のルーティング処理だけでなく、DSP内部のシェアードプロセスを使い、ダウンミックス、ダイナミクス、EQ、ディレイ、48IN/60OUTのミキサーマトリクス、そして無音検知機能まで、様々な機能を活用できます。回線数や内部処理のニーズに合わせて、様々な仕様をご提案します。



■ SCore LIVE フレーム



■ Route 1000 software